URADO MARUGOTO MAP

浦戸まるごとMAP

URADO MARUGOTO MAP ＊ URADO MARUGOTO MAP ＊ URADO MARUGOTO MAP ＊ URADO MARUGOTO MAP ＊ URADO MARUGOTO MAP ＊

浦戸の歴史

浦戸は“浦の門戸”の意。浦戸は近年、弥生時代後期の土器が発見されていて、古くから人々が住んでいた。

紀貫之『土佐日記』に、承平4年（934）12月27日「大津より浦戸をさして漕ぎ出づ…今宵浦戸に泊る」とあり、その頃から近畿へ海路の港であった。

室町時代には、浦戸港は明との勘合貿易の中継地として、土佐沖を航海する南海航路の寄港地として大きな役割を果たしていた。

16世紀後半のヨーロッパで出されていた世界地図には土佐があり、浦戸は世界に知られる港であった。文禄5年（1596）にはイスパニア（スペイン）のサン・フェリペ号が漂着した。これは後に長崎における26聖人の殉教、徳川幕府の鎖国政策につながる重大な事件となる。

長宗我部は浦戸を水軍の基地としたが、山内の時代となり城は高知に移されると、軍事的な重要性は失われ、城下と上方への連絡港とされた。

藩政時代は勝浦浜村が独立してあったが、明治元年（1868）浦戸村に合併。昭和17年（1942）6月1日高知市に編入のため、吾川郡浦戸村は廃止。

近年は、漫画家・西原理恵子が幼少期を過ごし、作品にも登場するので、映画「いけちゃんとぼく」では、浦戸でロケが行われた。

うらど音頭

浪の花散る
浦戸の沖に
漕ぎ出る漁師の
たくましさ
龍馬の大志
引き継ぐ子
育つ浦戸よ
五色の浜よ
※えいぜよ えいぜよ
浦戸は えいぜよ
（一番）

【アクセス】
JR高知駅より車で約28分
はりまや橋より車で約24分
高知ICより車で約33分
高知龍馬空港より車で約26分

浦戸地域内連携協議会
〒781-0262　高知県高知市浦戸274-9
☎088-842-2405　FAX.088-842-2510
HP http://www.urado.sakura.ne.jp/

❶坂本龍馬像
MAP／F-2

坂本龍馬は、土佐海援隊を率い、薩長連合に尽力し新政府の基本政策ともなる船中八策を草し、遠い外国に思いをはせていた維新の英雄。坂本龍馬を慕う多数の青年たちが全県下を募金行脚し、昭和3年（1928）5月建立したもの。高さは台座も合わせ13.5m。

❷旧制高知高等学校校歌の碑・豪気節の碑
MAP／F-2

校歌の碑は、昭和37年（1962）11月、旧制高知高等学校創立40周年記念として、同窓会により建立。

豪気節の碑は、昭和42年（1967）11月、旧制高知高等学校創立45周年を記念して建立。豪気節は、旧制高知高等学校の寮歌。

❸吉井勇歌碑
MAP／F-2

大土佐の海を
見むとて
うつらうつら
桂の浜に
われは来にけり
勇

昭和32年（1957）年秋、建立。歌人吉井勇は明治19年（1886）東京生まれ。

❹灯明台跡 浦戸砲台跡
MAP／F-2

万治年間（1658～60）に、夜間の船の出入りの目印となるように、油と灯心で光明を放つ板葺の家屋の灯明台が建設された。

文化5年（1808）には異国の攻撃に備え大砲を配備し、砲台場であったことを示す石垣などの遺構が残っている。

❺坂本龍馬彰勲碑
MAP／F-2

大きい碑には、頭部に「故坂本龍馬先生彰勲碑」と記され、下に「東奔西走不顧身、長山薩海住来頻、奇勲未奏罹奇禍、遺恨千秋泣鬼神」と土方久元の龍馬を弔う七言絶句。碑文は板垣退助、書は松邨外太郎。大正5年（1916）11月10日鏡川河畔に建立。昭和3年（1928）移設。

小さい碑は、細川潤次郎の「忠魂護皇基の碑」。

❻田中桃葉記念碑
MAP／F-2

碑は、昭和18年（1943）7月建立。桃葉こと田中貫太郎は、明治13年（1880）旧仁井田村生まれ。当時仁井田村に桃が多かったことから、「桃葉」と号した。大町桂月に師事し、小説家となる。桂月と同じく酒を愛し、酒仙と呼ばれた。

❼大町桂月記念碑
MAP／F-2

背面和歌
みよや見よ
みな月のみのかつら浜
海のおもよりいづる月かげ
大正七年かく　桂月
昭和4年（1929）4月、大町桂月先生記念碑建設会建立。大町桂月は本名芳衛。明治2年（1869）に元土佐藩士大町通の子として生まれる。桂浜をこよなく愛し、桂月を号とした。

❽横山黄木詩碑
MAP／E-2

碑は、昭和13年（1938）黄木先生詩碑建立会、高知市立商業学校校友会有志により建立。横山黄木は本名又吉。自由民権家、漢詩人。高知市職員のとき、商業学校創立に奔走。初代高知商業学校校長となる。

❾桂浜水族館
MAP／E-2

全国的に珍しい浜辺に建つ水族館で桂浜観光には外せないスポット。生き物との距離が日本一近いのが魅力。全国一の飼育数を誇るアカメの群泳は必見。ペンギン・ウミガメのエサやり体験など海の生き物とのふれあいが多く、四国初のトドショーは子どもも大人も楽しめる。

●開館時間／9:00～17:00

❿桂浜学園の碑
MAP／E-1

昭和初年、桂浜の山一体は高知市出身の教育者・川田鉄弥氏の所有であった。川田氏はこの城山全体が歴史的にも地理的・植物的にも学ぶ点が多いと考え、桂浜学園という名称をつけた。

⓫浦戸城址の碑
MAP／E-2

碑は、大正8年（1919）7月、高千穂学校建立。題字は海軍元帥東郷平八郎、碑文は川田鉄弥の書。碑文の作者川田鉄弥は、明治6年（1873）土佐郡初月村（現高知市）生まれの教育者。

⓬高浜虚子句碑
MAP／E-2

「海底に珊瑚花咲く鯊（はぜ）を釣る」この句は、高浜虚子が昭和24年（1949）10月来高した時の句。句碑は昭和31年（1956）6月建立。

⓭シェイクハンド龍馬
MAP／E-2

右手を差し出した坂本龍馬の銅像。NHK大河ドラマ『龍馬伝』で犬猿の敵対関係にあった坂本龍馬と後藤象二郎が大政奉還を前にすべての怨念を捨て、人々の幸せのために握手した。そこからシェイクハンド龍馬像の発想が生まれた。

⓮坂本龍馬記念館
MAP／E-2

坂本龍馬に関する貴重な歴史資料をわかりやすく展示するとともに、人柄や業績について紹介し、「龍馬への入り口」とも言える記念館である。「屋上展望」からは、太平洋の水平線を一望できる。

2017年4月から休館し、新館とともに、2018年春リニューアルオープン。

●開館時間／9:00～17:00
●休館日／年中無休（年末年始も通常通り開館）

⓯高知灯台
MAP／E-3

高知県が“龍頭崎灯台”として明治16年（1883）に桂浜に設置したが、戦後海上保安庁に移管され、昭和41年（1966）、“高知灯台”と名称を変更。昭和46年（1971）3月に全面的に改修して現在に至る。

⓰一領具足供養の地
（石丸神社・六体地蔵・忠魂不滅の碑）
MAP／D-3

慶長5年（1600）関ヶ原の戦で敗れた長宗我部は浦戸城の明け渡しを拒んだ。一領具足は重役家臣団と対立して戦い273人が殺された。評定中に襲われた役所跡に胴体を葬り供養のため石丸塚となる。首は他の者とともに、大坂に送られた。これを浦戸一揆という。

石丸塚はのちに石丸神社となるが、昭和33年（1958）桂浜道路整備のため、現在地に移された。

六体地蔵は、昭和10年（1935）4月、芸西村長谷地蔵尊の住職、堀川善明尼が、一領具足供養のため、広く浄財を募り建立した。

忠魂不滅の碑は土井晩翠の詩、寺石正路撰文、野村茂久馬の書による碑で六体地蔵の横に建つ。

⓱伝長宗我部の波止（元親波止）
MAP／D-1

浦戸湾に面した浦戸地区岸壁下にあり、大潮の干潮時でないと全容を見ることができない。波止は一辺が1mほどの四角い石を積んだT字型の構造物で、横幅約50m、縦幅約10m、高さ1m前後を測る。地元では「元親波止」と呼ばれており、浦戸城を居城とした長宗我部元親が船を停泊させる波止場としていたと伝えられている。こうした波や水の流れを調整する水制は対岸の種崎地区にも設けられており、明治の高知港湾図にも「元親波止」として記載がみられる。

⓲野中兼山の波止
MAP／D-1

土佐藩の奉行であった野中兼山は、土木事業に力を入れ、築港・堤防、堰の建設に努めた。浦戸湾口には波浪を防ぎ、荷物の積み降ろしに用いた石で築いた構築物の波止が残る。

⓳片岡半斎の墓・石碑
MAP／D-2

片岡半斎は尾張出身の武士。初め織田信長の家老に仕え、のちには美濃金山城主森右近忠政に仕えた。以後関ケ原の合戦、大坂冬・夏の陣をはさんで、転々と主君を変えること9回。寛永5年（1628）土佐に来て、この地にあった山内家家老野中直継（兼山の養父）の別宅客分として住んだ。（山崎闇斎碑文）

⓴浦戸大橋
MAP／D-1

高知の海の玄関口である浦戸湾の入り口に架かり種崎と桂浜間が結ばれている。浦戸大橋は、全長1480m（橋梁部915m・土工部565m）、高さ50m、車道幅6.5m、歩道幅0.75m×2、昭和47年（1972）7月に完成。高知県道14号春野赤岡線として高知県が管理。

㉑稲荷大明神
MAP／D-2

長宗我部元親の母が京都伏見稲荷を信仰していたことから、元親が勧請し祀ったと伝えられる。浦戸地区の産土神として、信仰されている。御祭神は、宇迦之御魂神（京都伏見稲荷の主祭神）と建速須佐之男命と大市姫命の三神である。

㉒津波記念の碑
MAP／D-2

石碑には、「安政元寅十一月五日大地しん津浪、後世人大地しん有時津浪入と心得べし大黒屋嘉七郎建立」とある。安政南海大地震は、安政元年（嘉永7年11月5日1854）に発生し、「寅の大変」とも言われる。

㉓観海亭
MAP／D-2

旧浦戸御殿で、藩政時代、山内家の別邸で御浜御殿と呼び、後には観瀾閣ともいった。用材がトガであるため通称栂御殿ともいう。ここは、御船乗初式のとき藩主が御覧になった建物である。

㉔受法寺
MAP／C-2

山号は龍頭山。浄土真宗本願寺派（西本願寺）の寺院。受法寺は永正年間（1504～21）堺の僧正善により真宗道場として開かれる。第2代は長宗我部の家臣であった池慶乗。文禄年間（1592～96）に受法寺に改称。

また、大棟の両端に用いた2面一対の鬼瓦を所蔵しており、額に日輪の入った陽の鬼瓦と額に三日月を飾った陰の鬼面は細かい表現にその違いを見せている。

㉕宇賀神社
MAP／C-3

宇賀神社は宇賀長者が白鳳年間（672～685）に土佐の富豪の祖先を祀ったといわれる。本殿のある小丘は『宇賀塚』『糠塚（ぬかづか）』と呼ばれ、長者が作ったたくさんの米の糠を捨て、小さな塚ができやがて小山のようになったところからつけられた。

㉖吉松桂門の墓
MAP／C-3～4

本名寿太郎。元治元年（1864）浦戸の老舗「山口屋」の長男として生まれる。急進的な自由民権家。政府の圧制に抗議し、大阪府下で尻無川事件をおこす。国事犯として裁かれることを望むが死刑となる。寿太郎生誕を祝って新築した家屋は150年を迎えた。

番外編

㉗長宗我部元親公初陣像

長宗我部元親公初陣像は、没後400年にあたる平成11年（1999）5月地元有志によって建立。

㉘長宗我部元親の墓

元親は天文8年（1539）、岡豊城主・国親の子として生まれました。永禄3年（1560）5月、22歳で長浜合戦で初陣を飾り、同年・父・国親の死後は戦陣に明け暮れ15年で土佐を統一、続いて10年をかけ天正13年（1585）春、四国を平定。しかし、この年の8月秀吉の四国征伐の前に降伏し、土佐一国の領有を許される。翌14年、秀吉の命を受けた豊後戸次川の戦いで、最愛の長男・信親を失いました。戦国武将であった元親は、その後政治家としての面目も発揮します。

今に残る長宗我部地検帳や長宗我部元親百箇条などの法令を制定し、大高坂城（高知）を経て浦戸へ移転し、浦戸城主となり城下町を建設。慶長4年（1599）5月19日、61歳。伏見の邸で亡くなる。